

1992年1月5・4日金環日食のまとめ

編集部

前号で書いた「比較的天候がよいというのは統計上に過ぎない」という言葉が、残念ながら当たってしまった。大勢の日本人観測者が出かけたロサンゼルスでは、別稿にあるように金環食の観測はできなかった。そのためすでに発売されている天文各誌でも、国内の部分食観測に重点を置いた記事が主になっている。ここでは現在までに入手した情報を基に、世界各地での状況をまとめてみよう

まず、前号のツアー情報にあった『ロサンゼルス金環日食観測天文ツアー（日通大手町支店主催）』は催行されなかった。旅行期間が長かったことが原因と思われるが、まだまだ日本人の休暇が自由にならないということだろうか。

★ ヤップ

金環帯の最初の方にあるヤップ島では、太陽高度約2度、継続時間約2分35秒の金環食が見られる。この島に観測目的で遠征したという情報はない。従って天候についての情報もない。

★ ナウル

金環帯の端にあるナウルでは、約9分40秒の金環食になる。香港やマニラからナウル行きの便が出ているため、比較的行きやすい島である。ここには数名の日本人が遠征をしたが、日食当日の天候は雨で、リングを見ることはできなかった。

★ キリバス

この日食の正午中心食が見られるのがキリバス共和国だ。しかし、正午中心食が起こる東経167度付近には残念ながら陸地がない。その手前、東経174～177度付近の金環帯にいくつかの島がある。その中で北限界線に近いアベママ島では雨、中心線に近いタビテウエア北島では第2接触は雲のために見えなかったが、その後は薄雲を通してリングが見られた（別稿参照）。さらに南限界線に近いアロアエ島でも、雲が多かったが金環は観測できた。

★ アメリカ

一番条件が良いと言われ、一番大勢の日本人が観測に出かけたロサンゼルスは、沖合いのサンタ・カタリーナ島をはじめ、本土の方も季節外れの天候のために日食は見られなかった。しかし、ずっと南のメキシコ国境に近いサンディエゴでは、雲間から沈むリングが見られ、その写真はライター提供で日本の各新聞にも掲載された。日本人がサンディエゴで観測したという情報はないが、おそらく何人かは目撃できたのではないかと考えられる。

昨年ハワイに続き、日食観測のギャンブル性を見せつけられたような今回の日食である。読者の方々にこの他の情報をお持ちの方は、ぜひ事務局までご一報をお願いしたい。